

平成19年5月25日

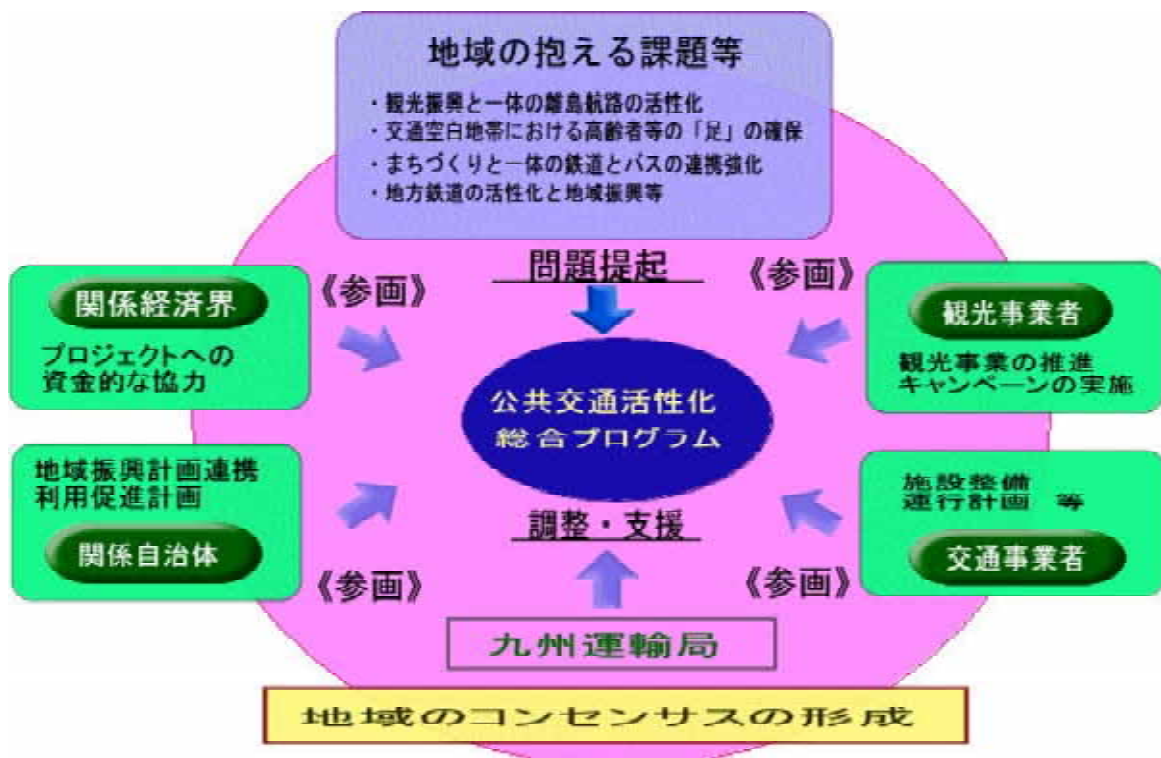
## 平成19年度公共交通活性化総合プログラムについて

「公共交通活性化総合プログラム」は、平成14年度から導入された制度であり、今年度で6年目を迎えます。

九州運輸局では、公共交通機関に関するサービスを少しでも改善するために、これまでも多くの案件を手がけてまいりましたが、今年度も引き続き、交通事業者、観光事業者、関係自治体、関係経済界等とともに、前期案件として別紙の6件について取り組んでまいります。ご理解、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

なお、今年度後期案件の募集は、8月頃に行う予定ですので、積極的なご応募をお待ちしています。

(制度イメージ)



&lt;問い合わせ先&gt;

九州運輸局企画観光部交通企画課  
 担当 大塚、須藤、久保田  
 電話 092-472-2315

## 平成19年度(前期) 公共交通活性化総合プログラム採択案件一覧表

九州運輸局

	案 件 名	内 容
1	南阿蘇鉄道における新交通システム(DMV)導入による公共交通活性化(継続)	平成22年度末の九州新幹線の全線開通を見据え、新幹線駅と阿蘇地域を結ぶ二次アクセス、三次アクセスの充実を図るため、熊本県、地元市町村等をメンバーとする協議会により南阿蘇鉄道においてDMVの導入に向けた取組が始まったところであり、DMVの導入に向けた関係者間の調整、詳細なデータ収集等を行う。
2	地域住民のニーズ把握等による肥薩おれんじ鉄道沿線の活性化(新規)	九州新幹線の並行在来線である「肥薩おれんじ鉄道」の活性化のため、二次アクセスを中心とする地域住民や観光客の利用状況、各種ニーズ等を調査・分析し、ニーズに即した鉄道運行、駅で結節するフィーダーバスの運行等利用客増大のための手法を整理するとともに、鹿児島・熊本両県が設置する「利用促進協議会」と連携した方策についても検討する。
3	陸上交通空白地域の解消による新上五島町の交通体系の再構築(新規)	新上五島町は、多くの財政負担と引き替えに、バス、タクシーの運行や航路の維持を図っているところであるが、地域住民の交通圏の拡大、利便性の向上を図ることにより、多様な行動・交流を実現し、かつ、持続可能な交通網としてこれ以上の財政負担なく再構築するための方策について検討する。
4	本土最南端の山川・根占航路における利用促進と物流の活性化(新規)	平成14年9月末に一旦廃止された山川・根占航路は、平成18年11月に官民の協力により再開されたところである。しかしながら、再開後も廃止前に比べて半分程度の利用状況となっていることから、人流・物流に係る利用実態を調査・分析するとともに、薩摩・大隅両半島間の交流活性化等を目的として、航路の利用促進策について検討する。
5	壱岐市及び唐津市における地域の魅力を活かした公共交通活性化(新規)	壱岐市と唐津市を結ぶ旅客定期航路について、平成19年4月1日より唐津市側の起終点を呼子港から唐津港へシフトするとともに、新船「エメラルドからつ」を就航させたところである。これを契機として、両市による募集型企画旅行の造成や地場産業の活性化の取組、バス等の陸上交通と連携した利用促進策等を検討・実施することにより、離島航路の活性化を図る。
6	小城市におけるコミュニティバスを中心とした公共交通体系の構築(新規)	平成17年3月に4町が合併して誕生した小城市では、旧町単位で巡回する福祉バスと連携した広域循環バスの試行運転を予定しているところである。平成20年度の広域循環バスの有料化に向けてアンケートを実施するとともに、JR、民間バス路線との連携のとれた効率的でニーズに合ったコミュニティバスを中心とした総合的な公共交通体系の構築を図る。